

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 41

2011年5月17日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。



□ I J R C 創 立 2 0 周 年 特 別 寄 稿
—静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC) は、
平成23年4月に創立20周年を迎えました—

イノベーションに改組した平成15年10月に専任教員として着任してから7年余りが過ぎました。この間、センターとして、国の施策に基づく産学連携事業を推進しあらゆる仕組み作りを進めてきましたが、活動費を含め自立化が求められている現在、疲弊化またはマンネリ化しつつある事業は見直し、静大ブランド構築に根ざした産学連携施策に注力すべきであると考えています。

また、企業経営と同様に、環境変化に応じ柔軟で機動性のある調整機能を持った経営資源の調達・配分が産学連携の場でも強く求められていると感じています。

今後も地域における新事業創出、起業家育成のため、中長期視点に立った事業化モデルの構築に努めたいと思います。

(記：3代目副センター長[浜松] 林 正浩)

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「静岡大学との連携による新技術説明会」を開催します
2. 「第4回研究・開発成果発表会」で発表します
3. 「第66回『産学官交流』講演会・交流会」のご案内
4. 「バイオテクノロジー国際会議」に出展します
5. 「静岡大学第22回共同研究希望テーマ説明会」開催予告

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 「静岡大学との連携による新技術説明会」を開催します
～人に優しい光・電子センシングテクノロジー～

日時 2011年6月10日(金) 10:30～16:10

会場 科学技術振興機構 JSTホール(東京・市ヶ谷)

主催 静岡大学、科学技術振興機構

プログラム

- 1) 化学気相によるAIN単結晶微粒子の合成と応用
電子工学研究所 教授 原 和彦
- 2) シリコンプロセスで作る小型高精度磁気センサ
電子工学研究所 准教授 香川 景一郎
- 3) インピーダンス変化型センサの無電源・ワイヤレス化
創造科学技術大学院 ナノマテリアル部門 教授 近藤 淳
- 4) 非接触非破壊ハンディ型硬さ測定器
工学部 電気電子工学科 教授 犬塚 博
- 5) 低電圧駆動と高分解能位置決めを実現するインチワーム機構
工学部 機械工学科 教授 大岩 孝彰
- 6) AFMで観察しながら操作可能な力覚ナノマニピュレータの開発
工学部 機械工学科 教授 岩田 太

- 7) 人工内耳のための音楽作成方法
情報学部 情報科学科 教授 北澤 茂良
8) パワー/シグナル解析用高速回路/電磁界シミュレータ
工学部 システム工学科 教授 浅井 秀樹

定員 100名
参加費 無料(事前登録制)
詳細/申込 <http://jstshingi.jp/shizuoka/2011/>
問合先 静岡大学知的財産本部 TEL 053-478-1414
ip-office@cjr.shizuoka.ac.jp

2. 「第4回研究・開発成果発表会」で発表します

日時 2011年6月10日(金) 13:00~16:35
会場 アクトシティ浜松研修交流センター5階6階
主催 浜松工業技術支援センターほか
静岡大学の発表内容
「インクリメンタルフォーミング
(金型レス・CNCフレキシブル塑性加工)」
工学部機械工学科 教授 田中 繁一
参加費 無料
詳細/申込
http://www.iri.pref.shizuoka.jp/news/news_event.php?U=906
問合先 浜松工業技術支援センター 技術支援担当
TEL 053-428-4152
E-mail hamamatsu@iri.pref.shizuoka.jp

3. 「第66回『産学官交流』講演会・交流会」のご案内

日時 2011年6月24日(金) 講演会17:00~18:30
交流会18:30~19:30
会場 静岡商工会議所清水事務所3階
主催 静岡商工会議所(静岡市清水産業・情報プラザ)
内容
講演1 「再生可能エネルギー利用による住宅の省エネ化と自立化」
工学部電気電子工学科 助教 松尾 廣伸
講演2 「冷凍機の高効率化を目指して
—冷媒/冷凍機油混合物の物性値測定—」
工学部機械工学科 教授 福田 充宏
定員 30名
参加費 無料(交流会1,000円)
問合先 静岡商工会議所 新産業課(担当:相磯、小塚)
TEL 054-355-5400 E-mail info2@onio-s.net

4. 「バイオテクノロジー国際会議」に出展します
~併催:第10回国際バイオEXPO~

ポスター展示日:2011年6月29日(水)~7月1日(金)
会場:東京ビッグサイト 西展示棟
<口頭発表日時>
○6月29日12:10~ ACA-2
「生体ナノイメージングのための電子線励起アシスト光学顕微鏡」
若手グローバル研究リーダー育成拠点 居波涉特任助教

- 6月29日14:50～ ACA-5
「小型・長寿命・低コストな心拍数ワイヤレスモニタ」
工学部 山川俊貴助教
- 6月30日13:30～ ACA-5
「食品成分のメタボリックシンドローム抑制に関する研究」
農学部 茶山和敏准教授
- 7月1日14:50～ ACA-1
「微生物を用いた迅速なポリ乳酸分解法」
農学部 徳山真治准教授

詳細/申込 <http://www.bio-expo.jp/jp/>
問合先 静岡大学知的財産本部
E-mail bioexpo-s@cjr.shizuoka.ac.jp

5. 「静岡大学第22回共同研究希望テーマ説明会」開催予告

日時 2011年7月26日(火) 13:00～17:00(予定)
会場 静岡大学浜松キャンパス佐鳴会館会議室
主催 静岡大学イノベーション共同研究センター
参加費 無料
問合先 静岡大学イノベーション共同研究センター
TEL 053-478-1413 E-mail tane8p@cjr.shizuoka.ac.jp

※発表テーマ等の詳細は、決まり次第イノベーション共同研究センターのホームページ <<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp>>に掲載します。

《 静大ラボ紹介 -26- 》

工学部機械工学科 柿本益志 准教授

民生用機器、産業用機器、研究用機器と新たに様々な製品の創出を計画するとき、技術の集積度が高まるほど、そこに冷却要素の必要性が高まってきていることに気づかされる。

機器の性能と併せて、エネルギー抑止の視点からも冷却の最適化は今後の工学にとって幅広く期待される黒衣的要素である。伝熱工学という最も古い工学の一つが、様々な新技術の具体化を可能にするために、今新たな革新を求められているとも言える。

5年前に九州大学から来られた柿本益志先生は、発泡金属多孔質体まわりの強制対流に見られる流体振動抑制を追及し、例えば従来のフィン型を用いずに流動抵抗を最小化して且つ伝熱性能を最大化するヒートシンクの基本設計指標を追求するなど、電子機器装置の小型化にも通ずる研究等に取り組んでいる。

基礎研究に取り組むと同時に、企業との共同研究にも取り組み、エネルギー利用技術の更なる向上や開発に繋げて環境問題やエネルギー問題の解決に取り組んでいきたいと熱意を示す先生は、少ない時間を割いてスポーツジムで運動不足を補い、好きなピアノを奏でて精神的な寛ぎも忘れない明るい人柄の青年教員で、企業の方々からも好感をもたれている。

【研究分野】伝熱工学

【研究キーワード】多孔質体、ヒートシンク、抗力低減、伝熱促進、断熱技術、熱交換器

(記：産学官連携コーディネーター 藤田武男)

《 みんなのコラム -40- 》

創造科学技術大学院は、博士課程のみの大学院で、設立されてから6年目になります。本大学院の大きな特長は、工学、情報学、理学、農学の自然科学系分野を網羅する博士課程大学院であることです。学生は5専攻から成る自然科学系教育部に所属し、一方、教員は8部門から成る創造科学技術研究部に籍を置き、学生の教育研究の指導を行っています。

本大学院自然科学系教育部の学生定員は50名ですが、設立した平成18年度より毎年、定員枠を超える入学者数となっています。他大学では博士課程の定員が充足せず、大変苦勞している話をよく耳にしますので、この入学者数は静岡大学として非常に誇るべき数値だと思います。なお、今年3月までに104名の博士学位取得者を社会に輩出しています。これらの本大学院修了生が、社会のそれぞれの分野で、大いに活躍されることを祈念して止みません。

最後に創造科学技術研究部に話を移しますと、研究部に所属する先生は、専任、兼担の教員合わせますと、総勢130名強になります。本学教員の約2割弱ですが、外部資金の獲得から言いますと、例えば科学研究費のほぼ半数は創造科学技術大学院構成員の貢献によるところが大です。企業との共同研究への貢献度も非常に高いと思います。

今後は、研究面での地域産業への貢献にも、大いに努めていきたいと考えていますので、どうぞ、企業の皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。
(記：創造科学技術大学院長 永津雅章)

《 編集後記 》

静岡大学では、このたびの東日本大震災発生に伴い、学長の下に震災対策室を設置すると共に様々な支援・対応を行っています。

また、東海大地震の想定域にある静岡大学では、平成20年度に「防災総合センター」を設立し、学生の防災力向上や防災に関する研究・地域連携にも務めています。今回の震災についても、自然災害科学・災害情報学・歴史地震学・津波工学・地震防災・地震砂防学・災害医療・被災者の心のケア等を専門とする教員が、専門性を活かして、全力で調査研究活動を行っています。

今こそ産学官が日本復興に向けて力をあわせる時。これまでの知識・意識にとどまらないイノベーションを実現するために、静岡大学が産学連携の力を発揮できればと思います。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、sangakukoho5@cjrr.shizuoka.ac.jp までお願いします。(↑送付の際は○欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.cjrr.shizuoka.ac.jp/>

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —
Copyright (c) 2008-2011 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved

vol. 41 11.05.17